

# 東京i CDCリスコミチームによる 都民意識アンケート調査 結果

別紙

- **調査方法**：インターネット調査
- **調査対象**：東京都に住所を有する20代から70代までの者
- **サンプリング方法およびサンプル数**：性・年齢構成を東京都の人口比率に合わせた割当抽出。  
10,000サンプル。

|    | 20-29歳 | 30-39歳 | 40-49歳 | 50-59歳 | 60-69歳 | 70-79歳 | 計    |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 男性 | 793    | 994    | 1087   | 804    | 755    | 564    | 4997 |
| 女性 | 772    | 953    | 1048   | 760    | 776    | 694    | 5003 |

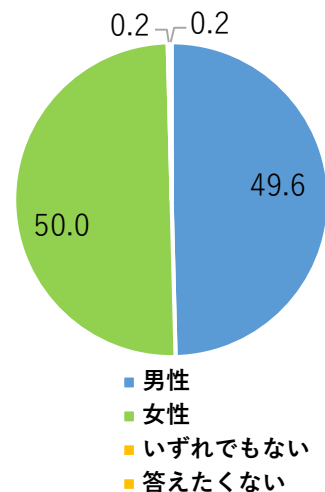
- **調査期間**：2021年2月26日～同年3月3日（第2回緊急事態宣言期間中）
- **調査項目**：
  - 現在行っている感染予防策（○感染予防対策をとっていない/とれない理由）
  - 新型コロナに関する意識や知識
  - 新型コロナに関する情報行動
  - 新型コロナの感染・対応についての経験
  - 仕事や暮らしの変化
  - 人間関係、偏見や差別経験
  - 受診に関する意識や経験
  - 健康状態
  - 基本属性 など

# 有効回収票についての基本属性

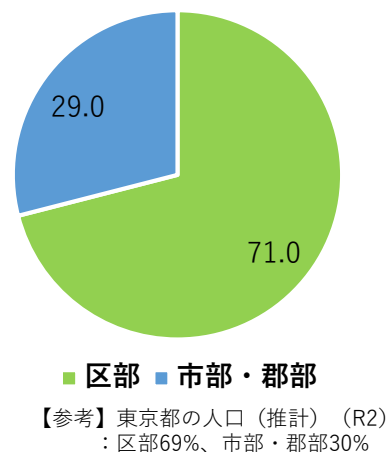
有効回収票 n = 10,000

(単位 %)

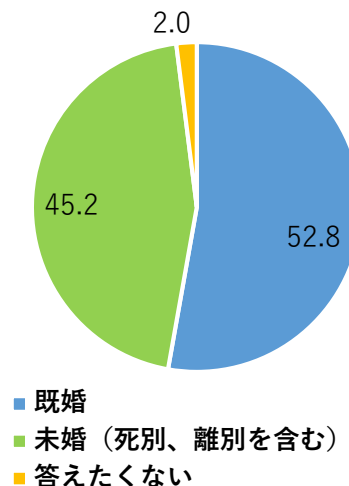
回答者の性別



回答者の居住地



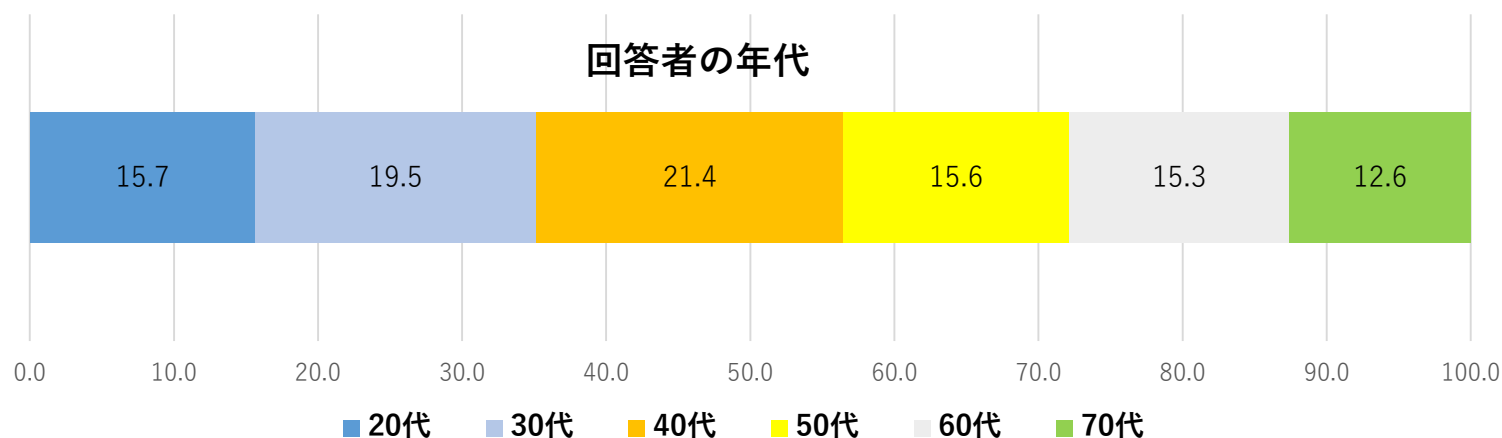
回答者の婚姻状態



回答者の職業

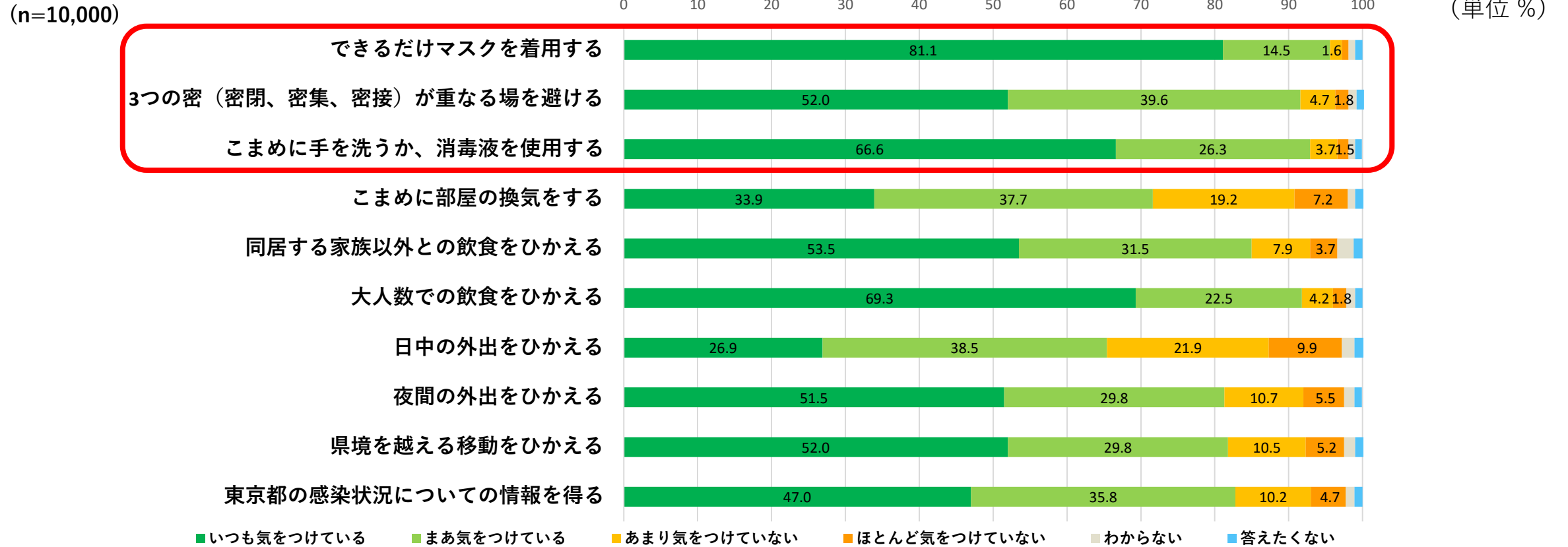
|              |       |
|--------------|-------|
| 管理的職業従事者     | 8.3   |
| 専門的・技術的職業従事者 | 13.9  |
| 事務従事者        | 19.6  |
| 販売従事者        | 4.3   |
| サービス職業従事者    | 10.3  |
| 保安職業従事者      | 0.6   |
| 農林漁業従事者      | 0.0   |
| 生産工程従事者      | 1.4   |
| 輸送・機械運転従事者   | 0.8   |
| 建設・採掘従事者     | 0.7   |
| 運搬・清掃・包装等従事者 | 1.4   |
| 分類不能の職業      | 2.9   |
| 専業主婦・主夫      | 15.2  |
| 学生           | 2.9   |
| 無職           | 14.0  |
| 答えたくない       | 3.6   |
| 全体           | 100.0 |

回答者の年代



Q

新型コロナの対策について、現在のあなたにあてはまるものを、それぞれ1つ選んで下さい。

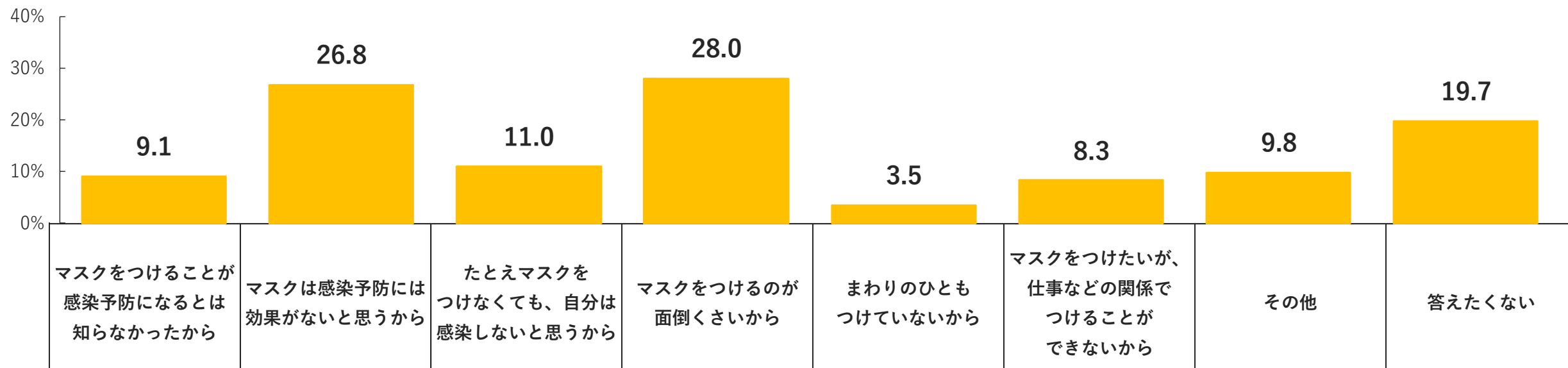


- ◆ 常時の備え：マスク着用、手指衛生、三密回避の順で「気をつけている」と回答した人が多い。
- ◆ 緊急事態宣言下で特に都民に依頼した項目：大人数や家族以外との飲食、ついで県境をまたぐ移動、夜間外出の順で「気をつけている」と回答した人が多い。

## Q マスク着用：

「あまり気をつけていない」「ほとんど気をつけていない」と答えたかたにうかがいます。  
その理由は何ですか。あてはまるものすべてを選んで下さい。

(n=254)

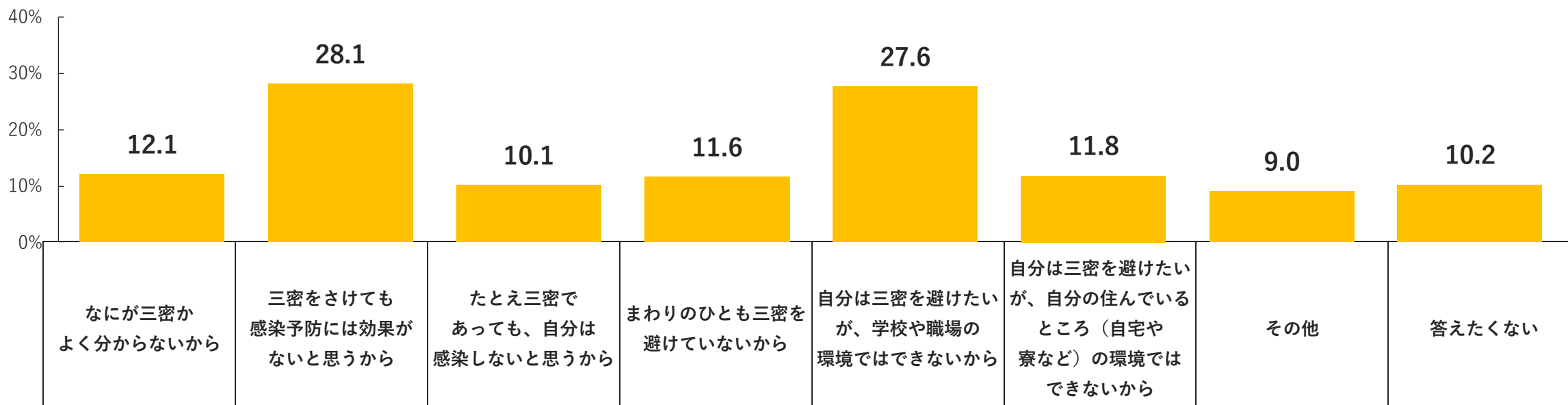


- ◆ 「マスクをつけるのが面倒くさいから」「マスクは感染予防には効果がないと思うから」が目立つ。
- ◆ 新たにわかってきた知見もふまえたマスクの予防効果と、マスクを適切に着用する習慣を通じて感染を下げる有効性・方法について、今一度の周知が求められるのではないかと。

## Q 三密を避ける：

「あまり気をつけていない」「ほとんど気をつけていない」と答えたかたにうかがいます。  
その理由は何ですか。あてはまるものすべてを選んで下さい。

(n=644)

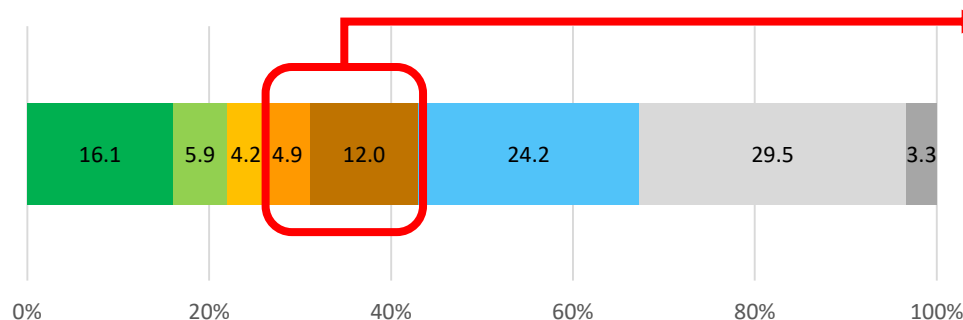


- ◆ 「三密をさけても感染予防には効果がないと思うから」、「自分は三密を避けたいが、学校や職場の環境ではできないから」が目立つ。
- ◆ 三密回避を実現するうえでは環境要因の関与も大きい。
- ◆ 「三密」の概念やリスクについては、都民にも、学校や事業所にも、今一度、考え方と回避するための工夫について、コミュニケーションをはかったほうがいいのではないか。

# Q テレワーク：実践の程度

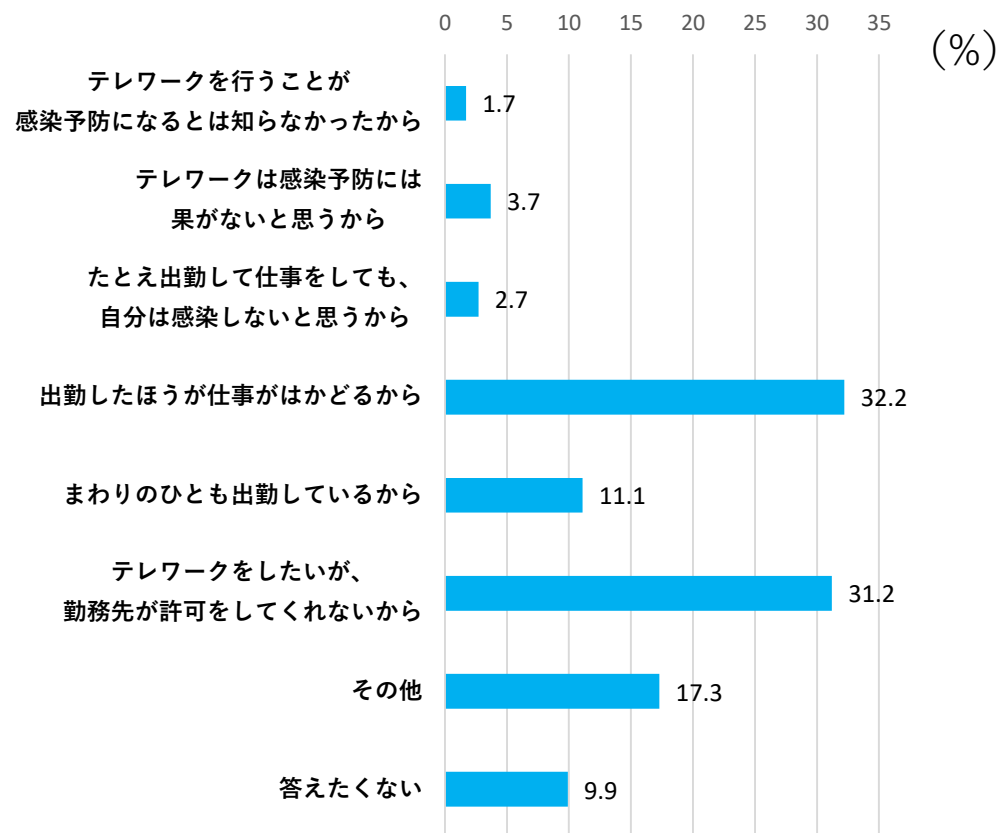
+ 「業務の1割程度の実践」「実践していない」と答えたかたにうかがいます。  
その理由は何ですか。あてはまるものすべてを選んで下さい。

「この1ヶ月、あなたは、テレワークを  
どれくらい実践しましたか」(n=10,000)



- 業務の7割以上実践している
- 業務の半分程度実践している
- 業務の3割程度実践している
- 実践しているが、業務の1割程度である
- 実践していない
- テレワークを実践できない仕事についている
- 現在、仕事をしていない(専業主婦・主夫、学生、定年退職など)
- 答えたくない

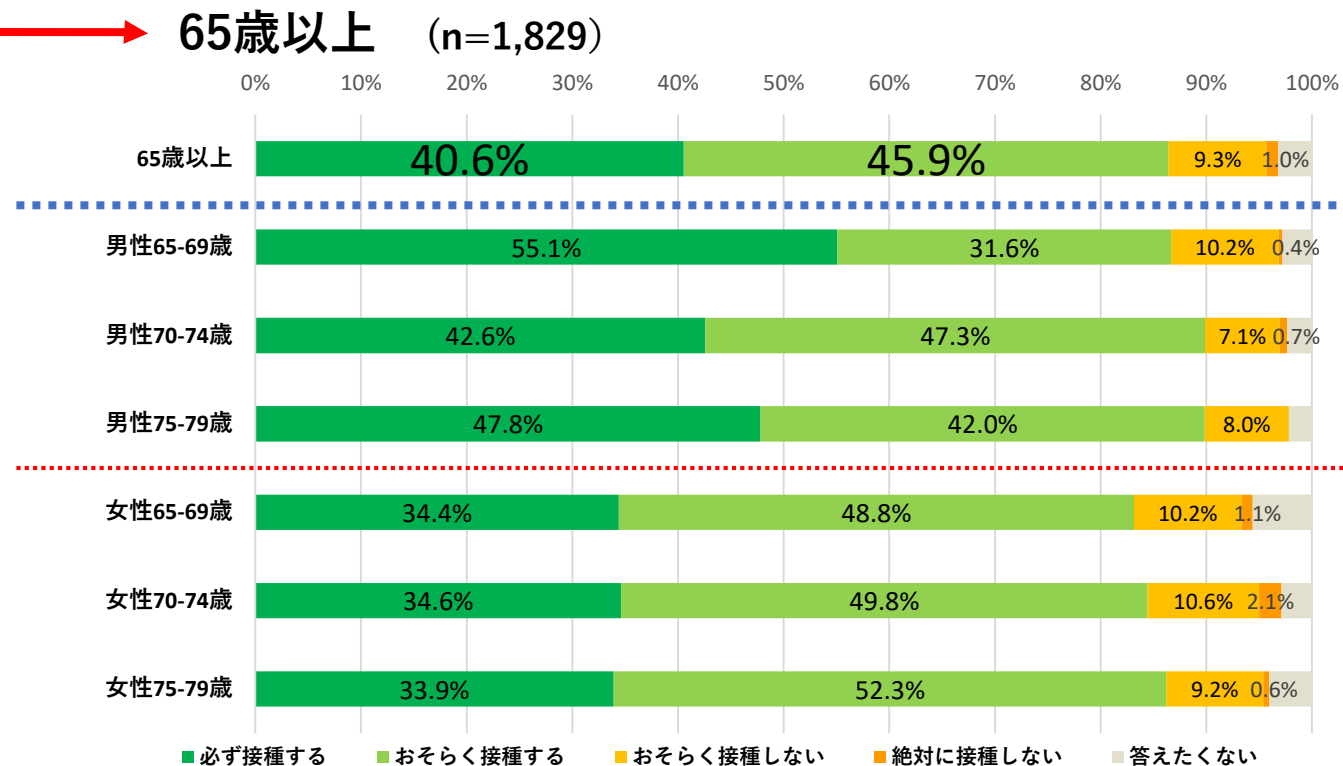
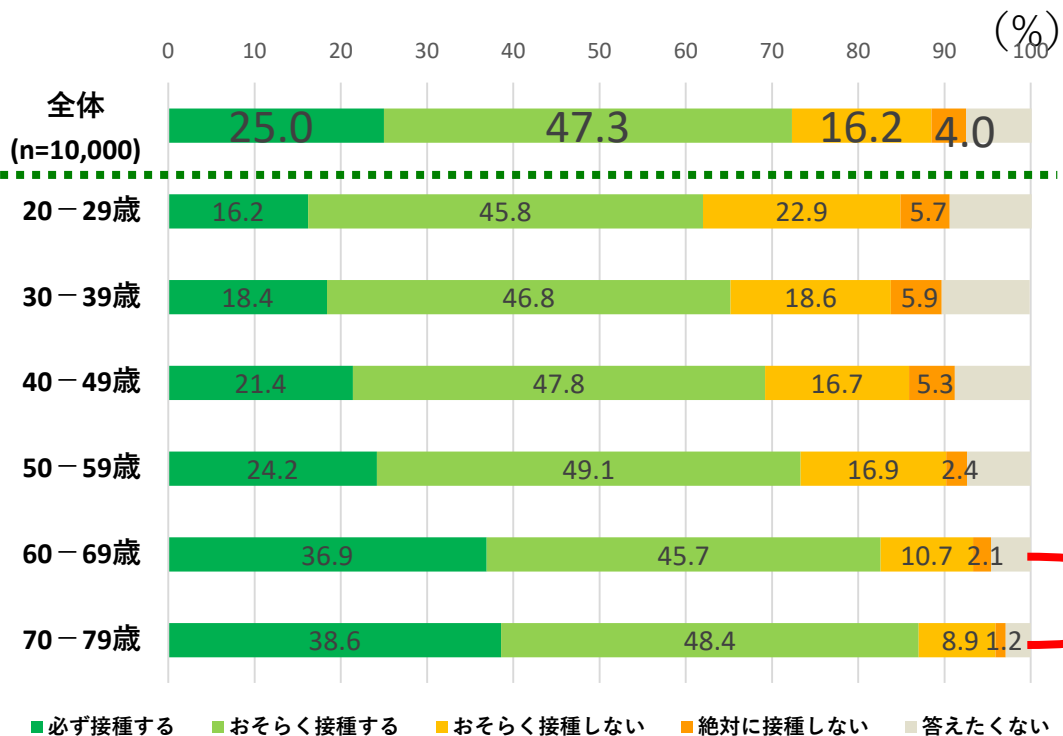
「その理由は」  
(n=1,685)



- ◆ テレワークを実践できない理由としては、「出勤したほうが仕事はかどるから」や「テレワークをしたいが、勤務先が許可をしてくれないから」が上位にあがっている。
- ◆ テレワークが実践できる職場の条件整備・環境整備等に対して、事業者がさらに積極的に取り組むことが求められるのではないかと考えられる。

Q

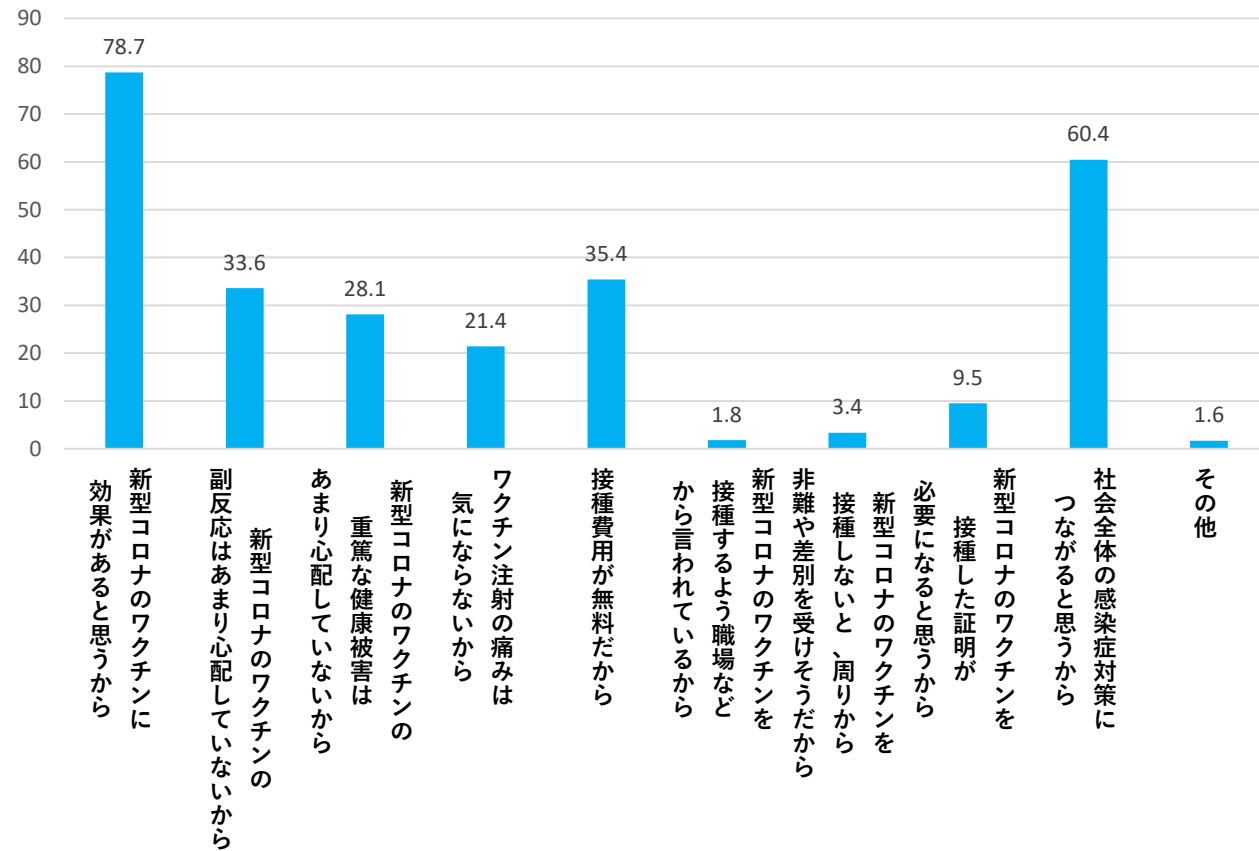
あなたは、新型コロナウイルスワクチンの接種を受けようと思いますか。あてはまるものをひとつ選んでください。



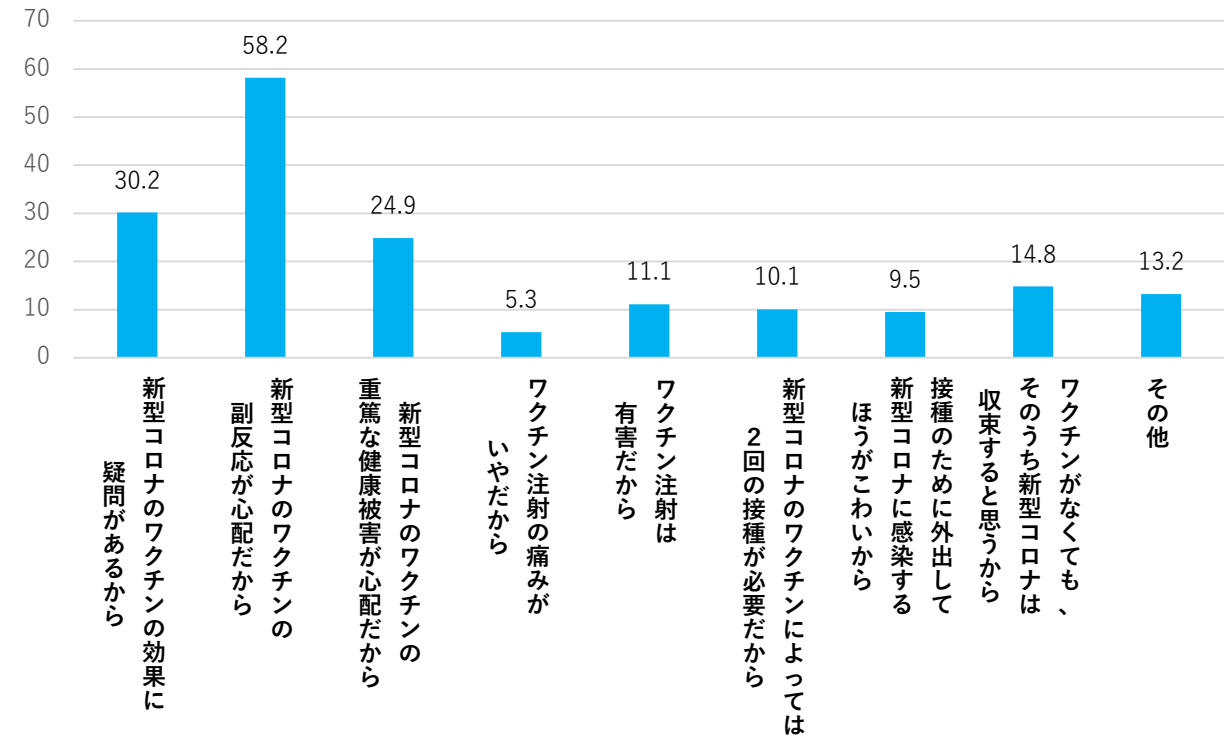
- ◆ 年代が上昇するほど、接種意欲が高まっている。
- ◆ 若年層は接種時期の見通しが持てないこともあり、自分ごとには考えられていないのではないか。
- ◆ 高齢者は86.5%が接種意欲を持っている。

# 新型コロナワクチンの接種：「受ける」理由・「受けない」理由（65歳以上）（あてはまるものをすべて）

「受ける」理由 :65歳以上 (n=1,579) (%)



「受けない」理由 :65歳以上 (n=189) (%)



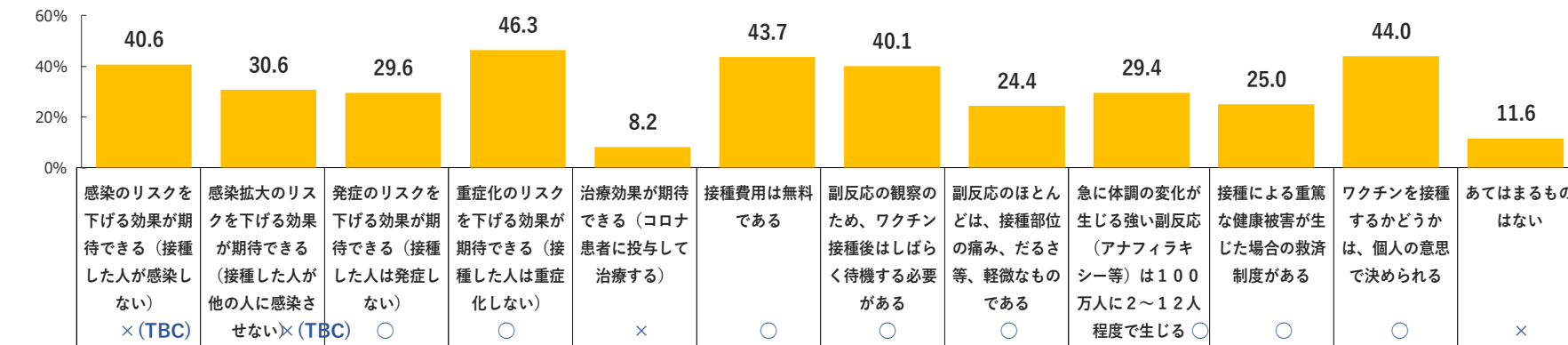
- ◆ 自分自身へのベネフィットだけでなく、社会全体へのベネフィットも評価している回答者が多い。
- ◆ 副反応への心配は絶えないため、ていねいなコミュニケーションの継続が必要。



Q

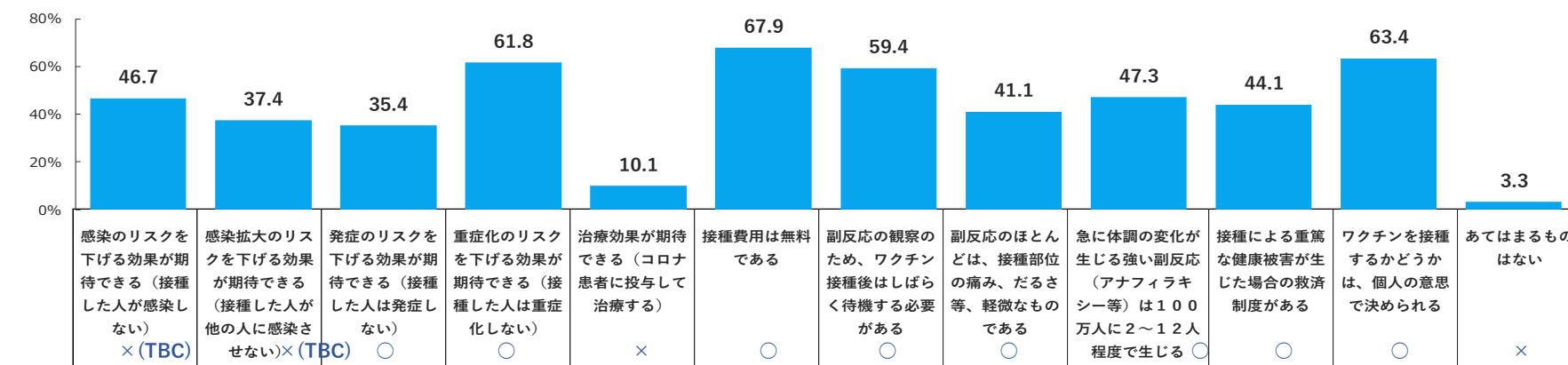
新型コロナのワクチンについて、正しいと思うものはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全世代  
(n=10,000)



\* TBC: to be confirmed。現時点では効果についての情報は限られており不明。

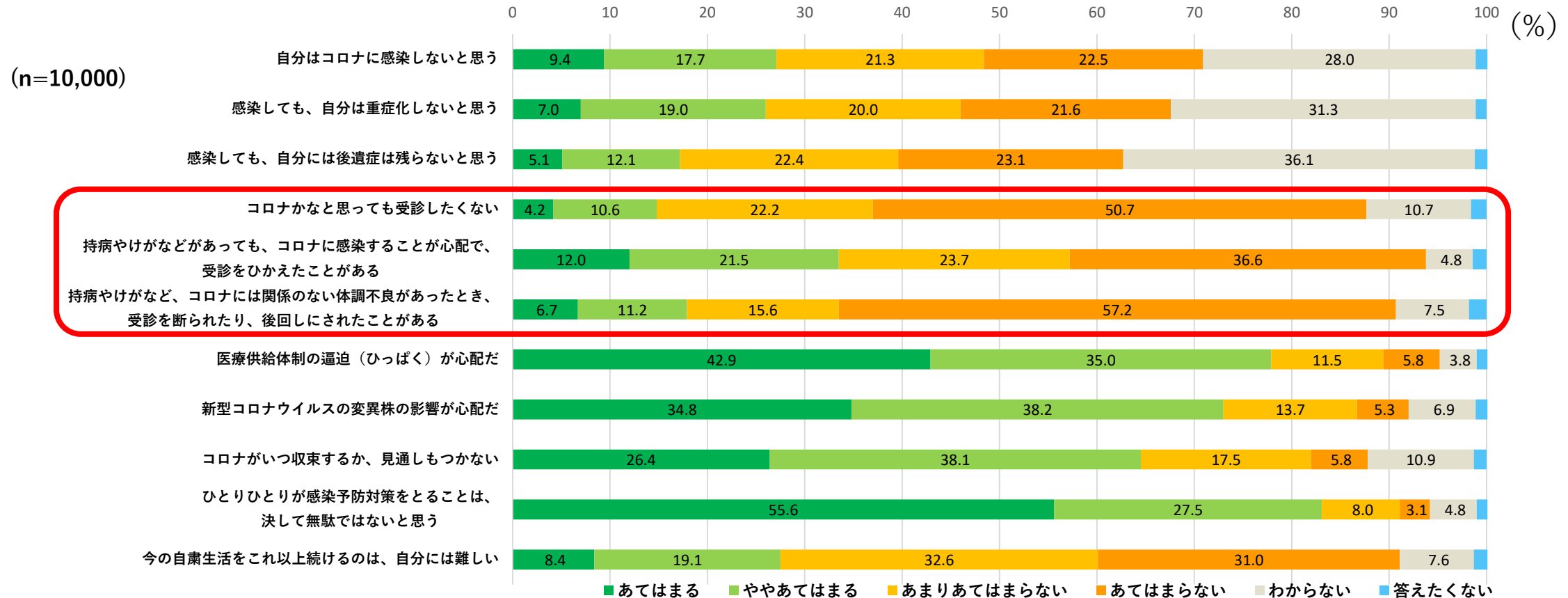
65歳以上  
(n=1,829)



- ◆ 高齢者は、全世代の平均よりも、理解している回答者の割合が高い。
- ◆ ただし、ワクチンを治療だと思っている人、接種すると感染しないと思っている回答者は、全世代の平均よりもわずかに多い。
- ◆ 高齢女性は高齢男性よりも、ワクチンの効果（発症リスク低下以外）、副反応や健康被害と対応、任意の接種である、の理解度が高い。
- ◆ ワクチン接種後も引き続き基本的な感染予防策が重要である、と伝えることが不可欠。

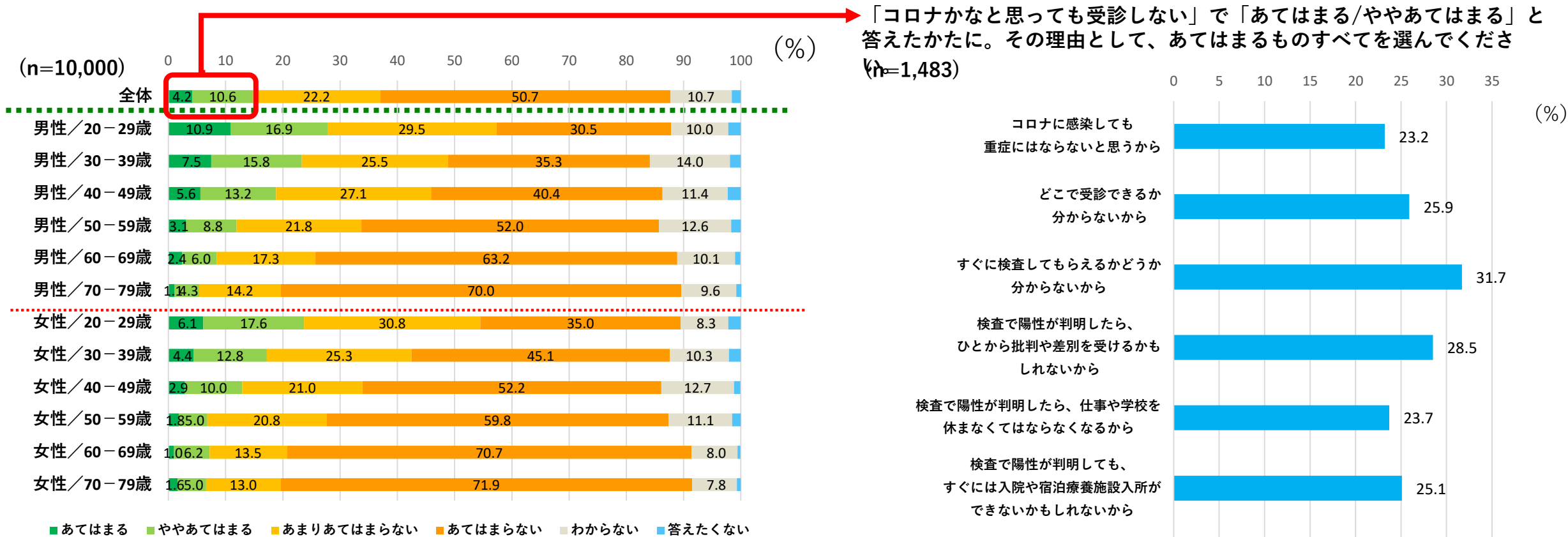
Q

新型コロナに関してあなたの気持ちや経験にあてはまるものを、それぞれ一つ選んでください。



- ◆ 医療体制の逼迫、変異株の影響は、7割以上に懸念されている
- ◆ コロナかと思っても受診を控えると回答した人が14.8%
- ◆ 持病やけがなどへの影響：コロナ感染を恐れた受診控えの経験が33.5%、持病やけがなどコロナには関係のない体調不良時での受診拒否の経験が17.9%にみられる

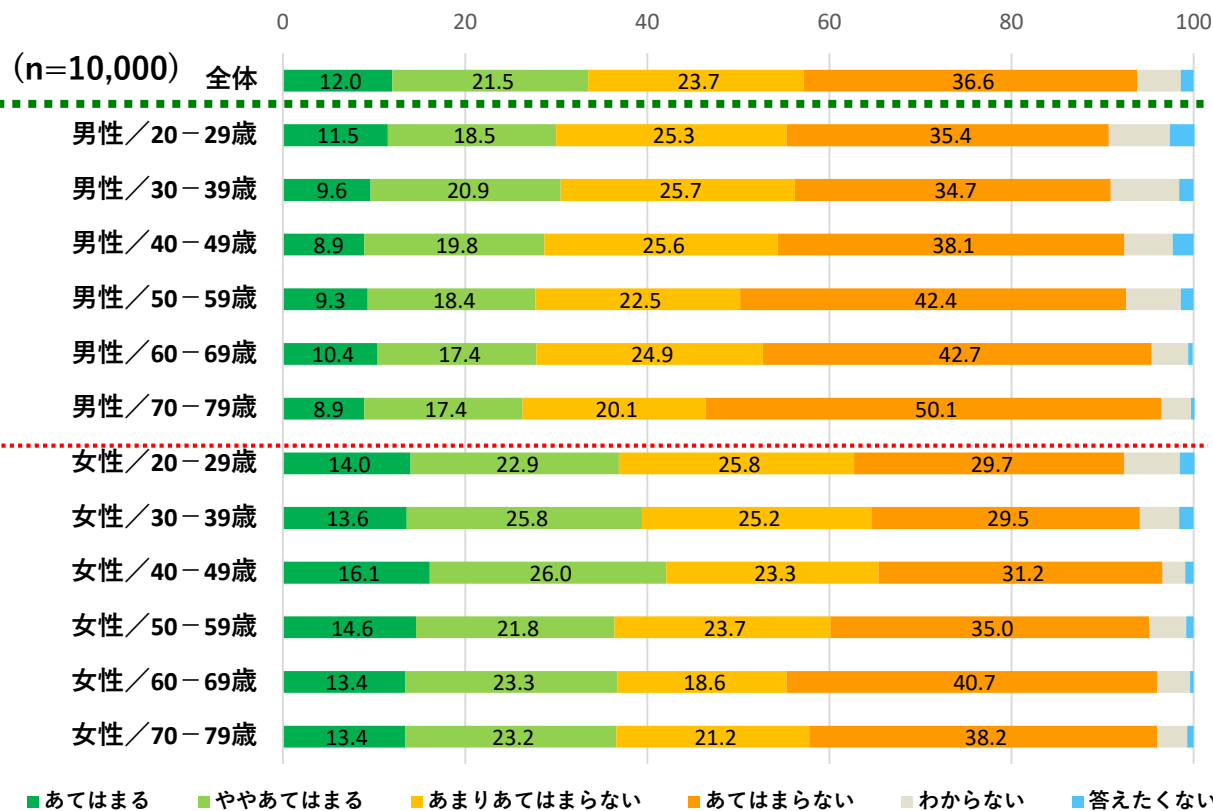
# 「コロナかなと思っても受診したくない」 × 「年代・性別」、およびその理由



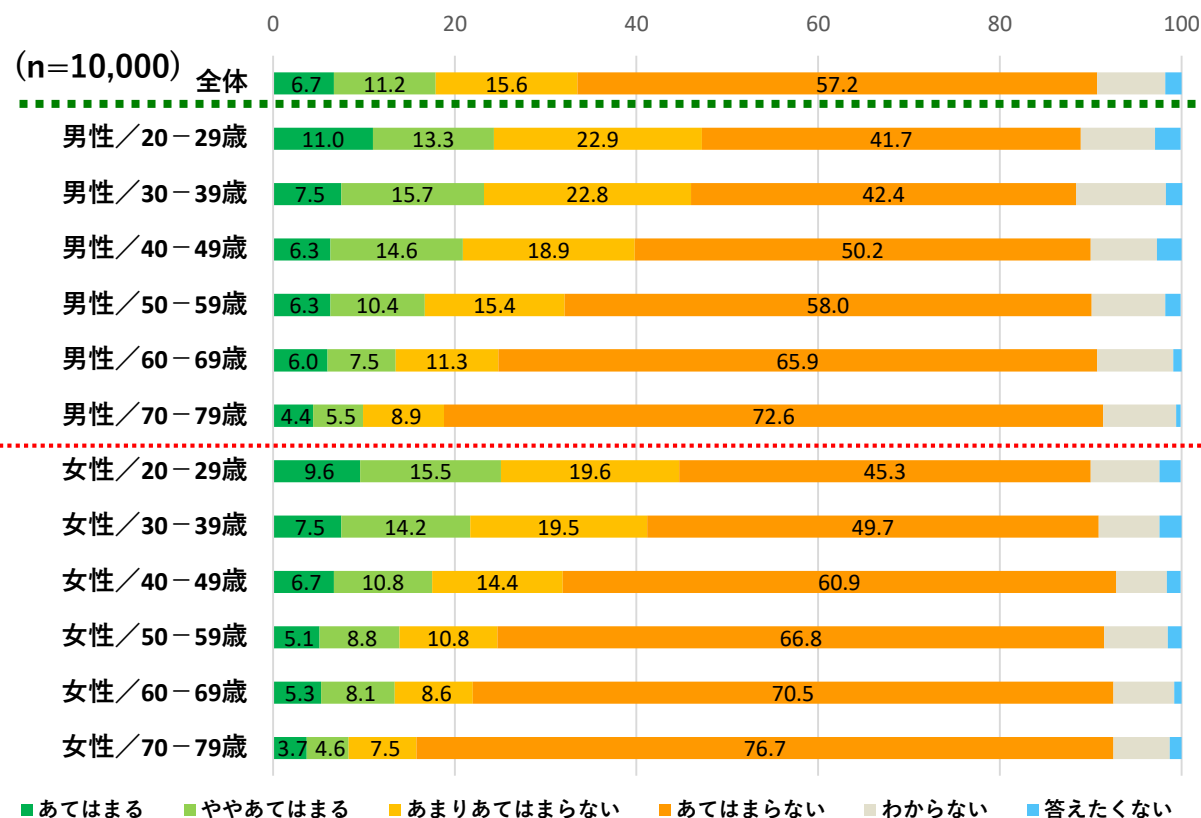
- ◆ すぐに検査を受けられないイメージが定着した可能性があり、強調した情報発信が必要
- ◆ 感染者への偏見や差別を許さないという強いメッセージを同時に出すことは不可欠

# 「コロナ以外の体調不良についての受診を控えた/受診できなかった経験」 × 「年代・性別」

「持病やけがなどがあっても、コロナに感染することが心配で、受診をひかえたことがある」 (%)



「持病やけがなど、コロナには関係のない体調不良があったとき、受診を断られたり、後回しにされたことがある」 (%)



- ◆ コロナ感染を恐れた受診控えに年代差はないが、男性より女性が目立つ
- ◆ 持病やけがなどでの受診拒否や後回しの経験は、男女とも若い世代が目立つ
- ◆ 必要な受診を促す啓発とともに、どの世代にも不公平感が残らないように留意すべき